

みごろの花&生きもの 散策コースマップ 2023

国営明石海峡公園 神戸地区
あいな里山公園

4月中旬～5月中旬

--- 季節のおすすめ散策コース ---
(ゆっくり歩いて1時間)
--- おてがるコース ---
(ゆっくり歩いて30分)



いきもの



シュレーゲルアオガエル(アオガエル科)
春になると田んぼや池の周りで「コロコロ」という美しい声が響きはじめます。しかし土の中で鳴いているため、その姿はなかなか見られません。



ツバメ(ツバメ科)
昔からツバメの鳴き声は「土食って虫食ってくち洪〜い」と言われます。巣を作るために土をせっせと集める様子から、こんな言葉が生まれたのかもしれない。



ナミアゲハ(アゲハチョウ科)
アゲハチョウといえはこのナミアゲハのことを指します。幼虫はミカンの葉を食べます。



アキグミ(グミ科)
アリマグミとよく似ていますが、アキグミの果実は秋に赤く熟します。

畑中口



クサイチゴ(バラ科)
野山のイチゴには木になるものが多いですが、これは草のイチゴ。果実は美味です。



イタドリ(タデ科)
スカンホとも。春の山菜として、昔はよく食べられていました。太い茎を根本で折るとホンッと音がします。



ウマノアシガタ(キンポウゲ科)
つやのある黄色い花が目立ちます。名前の由来は、葉の形が馬の足型に似ていることからだそう。



ミヤマガマズミ(ガマズミ科)
小さな白い花が集まって咲きます。コバノガマズミよりも葉っぱが幅広く、毛がほとんどありません。



コバノガマズミ(ガマズミ科)
小さな白い花が集まって咲きます。ミヤマガマズミよりも葉っぱが細く、さわるとふわふわした手触りです。



カマツカ(バラ科)
鎌の柄(つか)にできるほど材が強じんなことからこの名がついたそう。牛の鼻輪にすることから「ウシコロシ」の別名も。



モチツツジ(ツツジ科)
花のつけ根がネバネバすることから、この名前がつきました。この花の開花は田植え準備をはじめる合図でもあります。



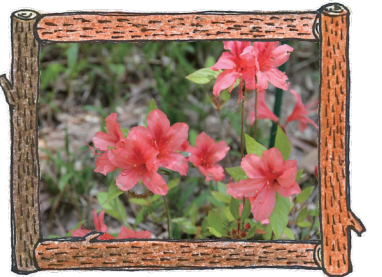
アリマグミ(グミ科)
牧野富太郎博士が、有馬の標本をもとに命名しました。6月～7月ごろに果実が赤く熟します。



ノアザミ(キク科)
赤紫色の花が目立ちます。昆虫たちが蜜を吸いにくる姿もよく見られます。



コウゾリナ(キク科)
花はタンホホに似ていますが、葉や茎をさわるとトゲトゲクチュクチュしています。



ヤマツツジ(ツツジ科)
朱赤色が目立つツツジです。新緑の山肌をあざやかにいろどります。



フジ(マメ科)
木々に巻き付いて、高い所から垂れ下がるように花をつけます。



カキドオシ(シソ科)
名前は、垣根も通してしまうほど強い草という意味。とても香りがよく、お茶の材料にもなります。



セキショウ(ショウブ科)
端午の節句に湯船に浮かべるショウブの仲間。爽やかな香りがします。木見川沿いで見られますよ。



ハナイカダ(ハナイカダ科)
葉の真ん中から花を咲かせる変わった植物。その姿を花筏に見立てて、この名前がつきました。雄花をつける木と雌花をつける木があります。

